

Glocal Tenri



12

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.20 No.12 December 2019

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
“皆丸い心で”
／堀内みどり..... 1
- ・ 日本語教育と海外伝道 (17)
日本語教育での教授法について④
／大内泰夫..... 2
- ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (15)
神との関係、社会との関係からテクノロジーとの関係へ
／金子 昭..... 3
- ・ 伝道と翻訳—受容と変容の“はざま”で— (20)
仏典翻訳の歴史とその変遷 ③
／成田道広..... 4
- ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観と教への伝播— (7)
2. コロンビアにおける日本人移民の話—その2
／清水直太郎..... 5
- ・ 遺跡からのメッセージ (52)
弥生時代を再考する⑥「対海国」を巡る旅
／桑原久男..... 6
- ・ ヴァチカン便り (41)
31 度目の司牧の旅へ
／山口英雄..... 7
- ・ 思案・試案・私案
天大生の SDGs に関する意識調査③
／佐藤孝則..... 8
- ・ 2019 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』に学ぶ (5)
第 5 講：71「あの雨の中を」
／島田勝巳..... 9
- ・ おやさと研究所ニュース10
天理ジェンダー・女性学研究室・関西環境教育学会共催ワークショップ報告 (金子珠理) / 日本宗教学会第 78 回学術大会で発表 (堀内みどり) / 第 325 回研究報告会 (ジャスティン・スタイン) / 「東アジア人文社会科学の新天地」シンポジウムに参加 (金子昭) / 第 326 回研究報告会 (金山元春) / 日本南アジア学会第 32 回全国大会に参加 (堀内みどり) / 教団付置研究所第 18 回年次大会に出席 (堀内みどり・金子昭) / 『グローカル天理』年間購読のご案内

巻頭言

“皆丸い心で”

おやさと研究所主任 堀内みどり Midori Horiuchi

平成から令和へと移った 2019 年。国内では、5 月に天皇が譲位され、10 月 22 日にはその即位を国の内外へと宣明されました。11 月 9 日、組曲『Ray of Water (第 1 楽章海神、第 2 楽章虹の子ども、第 3 楽章 Journey of Harmony、岡田恵和作詞、菅野よう子作曲)』が、天皇即位を祝う国民祭典で披露されました。「令和」の持つ「Beautiful Harmony (美しい調和)」を想起しました。

同じ 9 日、ドイツ・ベルリンでは「ベルリンの壁崩壊 30 年」を記念する式典が行われました。メルケル首相は、「自由、民主主義、平等、法の支配、人権擁護といった価値観は自明のものではない。何度も息を吹き込み守っていかねばならない(『朝日新聞デジタル』11 月 9 日配信)」「もう二度と、壁で人々を分断してはならない。われわれはどんなに高く、頑丈な壁も打ち破ることができる(『産経新聞』11 月 10 日)」と語りました。

また、今秋日本で行われたラグビーの世界カップは、人々に「ノーサイド」の精神を見せ、日本は「one team」のパフォーマンスを展開しました。多様な文化的背景をもつメンバーが、それぞれの能力をいかに発揮し、チームとしてプレーするために、どれほどの練習を積んだことでしょうか。世界中から多くのラグビーファンが来日しました。台風のために試合が中止になったカナダチームのボランティア活動も話題になりました。

一方で、度重なる水害や台風など自然の力にただ呆然とし、先が見えなくなるような出来事も少なくありませんでした。135「皆丸い心で」という教祖の言葉にそして、相次ぐ「親の子どもへの虐待」。「もうおねがい ゆるして ゆるして

ください」「あしたはもっともっとできるようにするから」頭から離れない言葉です。当時 5 歳(2018 年 3 月)だった結愛さんが、両親に宛て、ひらがなの練習をしていたというノートに書き残していたものでした。後に警視庁が全文を公開し、児童相談所の体制を拡充する法改正へとつながったといわれています。2019 年の裁判で事件は再び注目されました。今年 1 月に野田市で起きた事件は、親だけではなく、教育委員会の対応も問題になりました。

子どもたちが親から理不尽に扱われ、その結果「いのち」が奪われてしまいました。どうしてこのようなことが起きているのでしょうか。人間不信になってしまいそうな出来事です。学校の先生が同僚の先生を「虐め」で動画に撮る、赤ちゃんをエアガンの標的にする……近頃のニュースは、「人間」とは何ものかを問い詰めてきます。

私たちは、この世で生きて在るものです。さまざまなことが生起しつつある中で、メルケル首相が言うように、何度でも自由や平等・人権などの“息を吹き込み守って”いく覚悟が、共に生きて生かされるために必要だということなのだと感じます。

明治 16、17 年頃、久保小三郎が子供楯治郎の眼病をたすけていただいたお礼に、妻子とともにおぢばに帰ったとき、楯治郎が目に留めた葡萄の一房を手に取り、「世界は、この葡萄のようになあ、皆、丸い心で、つながり合うて行くのやで。」と仰せになった(『稿本天理教教祖伝逸話篇』135「皆丸い心で」という教祖の言葉にほっとし、そして人と人との「丸い心」を信じたいと思う年の終わりです。